

子どもと高齢者の交流や助け合いをどう広げるか

(企画・協力：にっぽん子ども・子育て応援団)

提言

高齢者と子どもは相性が良い。
定年前から企業連携で
地域デビューの準備を!!

登壇者

【進行役】	奥山 千鶴子氏	(特非) 子育てひろば全国連絡協議会理事長
	石蔵 文信氏	大阪大学人間科学研究科未来共創センター招へい教授
	岡村 紀男氏	元ほっとスペースじいちゃんち代表
	松本 茂子氏	ボランティアはなぞの代表
	宮内 敏雄氏	(特非) あい・ぼーとステーション 子育て・まちづくり支援プロデューサー
	梅澤 隆氏	(特非) あい・ぼーとステーション 子育て・まちづくり支援プロデューサー

■ 寄せられた声から

- 定年男性がとても活躍していることにびっくりしました。自分の地域でも活躍してくれる男性を発掘したい。
- 地域づくりへの男性高齢者の参入を考えるととても良い機会となりました。男性高齢者のポテンシャルの高さも登壇者の方の発表を聞いて認識させられました。
グループワークで他県の方との交流もできてよかったです。
- 各先生の発表がおもしろい!! 涙も出そうになった。「きれい事を実現しようとする努力が尊い」ってすごい。やるしかない、参加してモチベーションが出てきた。
- 無意識のうちに壁を作ってしまう、「できない」と思い込んでいる人が多い気がする。そういった壁をどう壊していけるか考え、取り組んでいきたい。
とても沢山のヒントがもらえ、実践していけそうなイメージができた。

■ 議事要旨 奥山 千鶴子氏

分科会18は、大人はもとより、子ども一人ひとりが人として尊重される社会づくりの基本として、高齢者と子どものふれあいや交流の仕組み、あり方に今一度目を向け、特に人生のスタート期の子育て家庭を地域で支える体制づくりに、高齢者の活躍を期待して企画された。

石蔵文信さんは、大阪府枚方市にて自身の孫育てを主軸とした育翁として活躍。これからは男性シニア層の生活自立が大切であり、それは夫婦問題の解決にとどまらず、男性が孤立せず地域の役に立つ処方箋となる。お孫さんの保育園の送り迎えだけでなく、保育園の環境整備や野菜作り、男性の料理教室、健康維持にも寄与する自転車発電等、活動はとどまることを知らない。日本の高齢男性の孤立の課題解決に子育てを活用し、子育てを中心とした地域社会の再生を目指して活躍している。

岡村紀男さんは、東京都大田区にて、リタイア後、2011年6月より自宅を開放して乳幼児の居場所「ほっとスペースじいちゃんち」を立ち上げ、「人はひとの関わりの中で生きる」を実践された。施設ではなく、暮らしのある「家」であることが親子の緊張感をやわらげ、つながりをつくる様子が映像からも伝わってきた。

宮内敏雄さん、梅澤隆さんは、東京都港区にあるNPO法人あい・ぼーとステーション「子育て・まちづくり支援プロデューサー（通称まちプロさん）」として活躍中。シニア世代男性が、子どもたちの育つ姿を間近に見つつ、子育ての苦楽を親とともに分かち合う地域の子育

て支援から得たものは、「競争原理から分かち合い」への新たな価値観との出会いだったという。また、男性の地域参画には、講座の開催など学びなどから入ると参加しやすい等のヒントも披露してくれた。

松本茂子さんは、ボランティアはなぞの代表として、兵庫県明石市にて、1991年より小学校区の福祉活動に取り組み、阪神淡路大震災の後の仮設住宅の支援をきっかけに地域の見守り活動を続けてきた。市から地域支援合いの家設置事業を受託して「西明石サポーティングファミリー」を開設、多様な助け合い活動を展開している。

後半は、「どう仕掛ける？子どもと高齢者の出会いの場」として、グループワークを行い情報交換とともに、各地域で「明日からできること」を確認しあった。地域のシニア男性が地域で活躍してもらえるためのポイントや、子どもと高齢者の交流や助け合いの広げ方のヒントが得られた。

提言は、「高齢者と子どもは相性が良い。定年前から企業連携で地域デビューの準備を!!」となった。子どもや孫がいるかどうかにかかわらず地域の孫育てがもっと広がるよう、地域の受け入れ体制づくりと企業連携が欠かせない。そして、それは高齢者にとっても大きな生きがいとなって地域に戻ってくるという手ごたえを感じる分科会となった。

アンケートの結果 参加者数：141名

※委託分科会でオリジナルのアンケートを利用したため、円グラフはありません。